

「日々の理科」(第 2173 号) 2020, -6, 21

## 「6 月 21 日の部分日食」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

6 月 21 日の日食では、アフリカ、アラビア半島南部、中国南部、台湾で金環食が見られた。日本では全国で部分日食が見られる予報だったが、残念ながら全国的に天気が悪く、東京では「快曇」(かいどん) だった。私は、国立天文台のインターネット生中継で「観望」することにした。名寄(北海道)、三鷹(東京)、石垣島(沖縄)の3カ所の天文台で、同時生中継をしてくれたのだ。画面は ZOOM が使われ、詳しい解説もあったので、とても楽しかった。

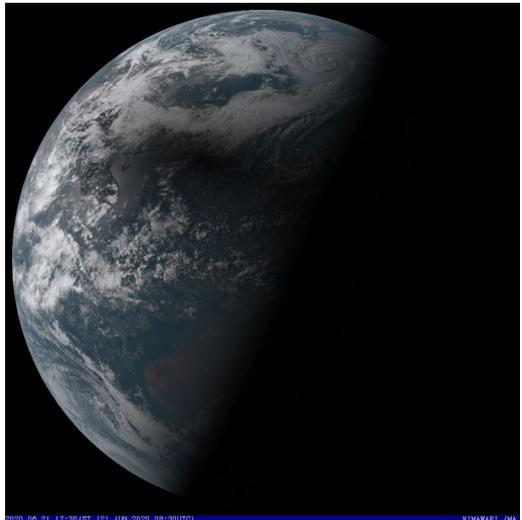
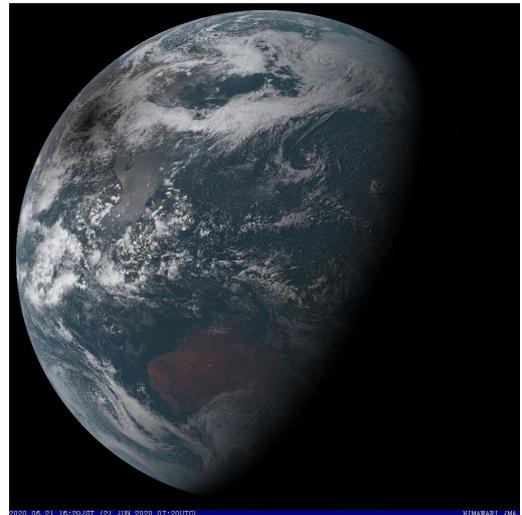


これが名寄天文台(北海道)の日食画像。「お～日食」になっている。名寄はよく晴れて、絶好の観望条件だったようだ。色はカメラのフィルターが原因だ。



こちらは石垣島天文台。今回の日食は、金環帯に近い南の土地ほど食分が大きかった。石垣島ではこんなに「細い太陽」になっていた。残念ながら、三鷹は曇っていて、映像は全く届かなかった。

天気にもまったく影響されない日食の観測地点がある。それは宇宙だ。気象衛星の画像で、「日食観測」ができるのだ。ただしそれは、日食そのものを見るのではなく、日食によってできる「月の影」を見るのだ。



これが日食時間帯の地球の可視光画像だ。もし宇宙空間に滞在していたら、このように見えるはずだ。上が 16:00、下が 17:00 である。黒い影(月の影)が西から東に移動しているのがわかる。地球の明暗境界線(昼と夜の境界)は、逆に東から西に移動している。



私は食卓で日食を観察しようと思い、徳島県小松島名物の「カツ天」で「日食カツ丼」を作って食べた。